# 魔法使いの大変さがあなたにわかりますか？？

南沢　美香

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

## 注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
魔法使いの大変さがあなたにわかりますか？？

【Ｎコード】
Ｎ５２０３Ｌ

【作者名】
南沢　美香

【あらすじ】
登場人物はみんな魔法使い！！そして魔法使いはとっても大変！！
登場人物には好きな人がいる！！その結末は！！？？

## 第1章 ― 登場人物紹介（前書き）

ちなみに新山愛美です。名前変えたけど、よろしくお願いします。

# 第1章ー登場人物紹介

ミン・・・魔法使い。母は天使、父は悪魔。人間で言う、いわば【ハーフ】あたん（あたしってこと）の家は代々お金持ちの家系で、母は『お母様』父は『お父様』といわなきゃいけないって訳！！（いきなりタメ口・・・）お父様は悪魔って言っても、お母様にしつけられ（って言うのかな？）、今は、すっごく厳しい。だから、あたんにとっては、毎日が修行ってわけ。学校にも通ってる。学校の事は、あとで言うね　なぜか関西弁で～す。　主人公らしいで！

サン・・・同じく魔法使い。母は天使、父も天使。なので、当たり前ですけど、私も天使でございます。私もミンちゃんと同じ学校に通っております。私はミンちゃんと違って、家は極平凡ですので、自己紹介はこのくらいです。

ジン・・・俺も魔法使いだ。俺ん家は、ミンの家と交流がある。だから小さいことからミンのことを知ってる。幼馴染ってやつだな。俺の母は悪魔と天使のハーフ（？）父は悪魔。親父が関係している（ミンの親父と）じゃあ次に、俺の親友を紹介するぜ！！

シノン・・・僕がジン君の親友です。僕のお母様は、悪魔です。そしてお父様も、悪魔です。本当だったら、僕も悪魔なんですが・・・、僕だけなぜか天使なんです。なんででしょうか・・・？僕の紹介はこのくらいでもいいですよね。よろしくお願いします。

住んでるところ。
身近和分（みきわぶん）物凝城（ものぎょうじょう）
学校。

地元の私立小学校。名前は―『私立魔法願馬郎学校　第二部学園』
《しりつまほうがんばろうがっこうだいにぶがくえん》
その名の通り、魔法をがんばる学校。ミン、サン、ジン、シノンも
この学校に通う。みんな2年C組。そしてみんな大の仲良し。
全校生徒、１２３４人。1年はH組。2、3、4、5、6年も同じ。
この辺では1番規模が大きい。

## 第1章ー登場人物紹介（後書き）

恋愛も入れていきたいと思います。いろんなキーワードが入ってますので、今はなんのキーワードか探しながら読むのもいいのでは？？

## 第2章―みんなの関係（前書き）

今度は第2章！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！ヨロシクオネがいします。

## 第2章―みんなの関係

ミン、サン、ジン、シノンの関係。代表して、私が言います。【サン】です。

皆さん、私を含めた4人が、幼馴染だったと思いますか？
いいえ、そうではありません。私たち4人は（面倒くさいので、これからは私たち、にします）『私立魔法画ん場朗学校　第2部学園』（長すぎる・・・！！）の1年生ではじめて同じになりました。もっとも、ミンちゃんとジン君は、幼馴染ですが。
会って半年もしないうちに、私たちは親友になりました。きっかけはミンちゃんです。ミンちゃんは誰とも仲良く出来て、とても積極的なので、友達のいなかった私の、最初の友達になりました。（小学生になってからですよ）私たちは、とても気が合いました。そして、私たちは、親友に恋をしたのです。
みんな人生初めての恋だったんです。いわば、初恋ですね。ミンちゃんはシノン君に。私はジン君に。ジン君はミンちゃんに。そしてシノン君は、私に。みんなバラバラでした。そして、2年間同じクラスになっても、だれも気が変わらず、カップルなんて、出来るはずがありませんでした。
ミンちゃんは控えめの方がよかったのでしょうか。私はにぎやかい方がよかったのでしょうか。ジン君はにぎやかの方がよかったのでしょうか。シノン君は控えめの方がよかったのでしょうか。私にも分かりません。親友には、すべてを話せる。なんて本当だと思いますか？
そんなのは嘘です。そうとう信頼していないと言えるはずがありません。特に恋の話なんて。（コイバナっていうんですか？）クラスのみんなも言っています。だけど、私たちは、恋の話まで出来るほど、信頼をしているんです。でなければ、誰が好きかなんていって

くれるはずがありません。

つまり、それほど仲良くなった、ということです。
名前も顔も知らない４人が、半年で、急に仲良くなった。これって奇跡だと思いませんか？私は思います。
あ、話が脱線しましたね（汗）
とりあえず、親友、ということです。よーく覚えてくださいね。

## 第2章―みんなの関係（後書き）

今回は、サンが主役でしたね（主役っていうかサンしか話してませんね）　次話は，魔法使いの大変さを書きます。下手ですが、よろしくお願いします。

## 第3章ー魔法使いの大変さ（前書き）

前話のあとがきにも書いたとおり、今話は、魔法使いの大変さを書きます。
どうぞ。

## 第3章ー魔法使いの大変さ

「ミーン！！待ってくれよ！！」
「なに？ジン」
「明日ってさ、魔法の授業あるか？」
「あるけどなにか？」
「ナニ怒ってるんだよ！！」
「今から魔法の宿題するって言ってるじゃん！！いちいちとめないでよね（怒）」
「・・・悪かった。あと、もう1つ聞きたい」
「何（怒）」
「宿題ってナニ？」
そういうと、ミンは少し考えてからこういった。しかも機嫌が良かった。
「じゃあさ、宿題教えてあげるから、宿題手伝って！！」
「・・・・・・・・・・、分かったよ・・・」
ーミンの家ー
「お父様、お母様！ただいま帰ってきましたわ！」
「ミン、俺もそんなに丁寧に話さなきゃダメか？」
「いや、そこまではいいけど、敬語くらい使ってよ！」
「わかってるって」

「あの、ミンさんの宿題の手伝いをしにきた、ジンです。おじゃまします」
「はい～。ミン！魔法の宿題なんて簡単でしょっ。なんで手伝ってもらうの！？」
なぁんて、厳しい・・・。でも、そんなときは
「お母様！ジン君は、勝手についてきたんです。私はいいってちゃんと断りましたわ！」

って言う。すると
「あ・・、そう。ごめんね」
って言うからとても気持ちがいい。

「ジン～。これどういう意味？むずいんですけどぉ」
「おい、こんなのもわかんないのかよ！」
って言って、宿題を終えた。

ー翌日、学校ー
最初は先生の言葉
「はい、皆さん。宿題をちゃんとやってきましたね？では、今から、
やってみてください。まずはサンさん。」
「はい。
”やー！！！！？」
「上出来です。ちゃんとやってきたんですね。つぎ、シノン君。」
「はい。
”・・・・・・・・おーやー！！！！！！！！！！
？」
「こちらも上出来です。つぎは　ジン君」
「はい。
”よーーーーーーーーーーーーーーやーーーーーーーーー！！！！
！！！！！？」
「うーん。まあまあですね。まあ、宿題はやってきたのでしょう。
では次。ミンさん。ミンさんは毎日やってる優等生ですからもちろ
んやってるはずですね」
「はい・・・・・・。
”ぬおーーーーーーーーーーーーーーーや！！！？あ、出来た・・・！
！」
「完璧です！！ブラボー。みなさん、拍手を！！！！！！！！！！！
！！！！！！」

「やったねっ！！」

って毎日魔法の宿題がある。はぁ・・・。優等生って当たり前だよ！毎日1時間かけて宿題やってるんだから！みんなは出来ないよね。この世界には、塾って物がない。だから、毎日ヒマ。たまに遊ぶ程度。ま、魔法の授業しかやらないからね。あんなこんなでとっても大変。わかんないよね・・・。とりあえず大変なの！！

## 第3章ー魔法使いの大変さ（後書き）

ちょっと長くなりましたぁ・・・。

次話は、授業内容を書きます。

## 第４章ー魔法の授業内容

ブリザガ～ブリザガ～～
（→これが学校のチャイムなの！）
「はい、皆さん、席についてください。」
ザザザザザザ～
「今回の魔法は、『仲良し魔法』です。この魔法を使えば、どんな人とも仲良くなれます。恋愛に効果的ですね」
このとき、あたんはシノンに。サンはジンに。ジンはあたんに。シノンはサンを見ていることは、だぁれも知るはずなんて無かった。
「先生！！今、あたんには仲良くなりたい人がいるんです！！はやく教えて下さい！！！！」
「分かってますって、今から教えます。」
ゴニョゴニョゴニョゴニョ・・・。
「分かりましたね？では、今日の授業はこれで終わります。」

ー帰り道ー
あたんは早速シノンに試してみた。するとどんどん気が合って、他の子よりも（サン、ジン）仲良くなることが出来た。このまま・・・
「ミン、僕は、君が好きだった。付き合ってくれないか？」
なぁんて言ってくれたらいいのになぁ・・・。そしてらあたんは絶対に
「シノン・・・、いいよ・・・。あたんも前から好きだった。」
って言うのになぁ・・・。
こんな妄想をしているうちに、家に着いた。
「バイバ～イ♪」
「うん。また明日ね」

## 第４章―魔法の授業内容（後書き）

このあと、２人の関係はどうなるのか！？楽しみですね。

## 第5章―みんな魔法を使ってる！？

ブリザガ～ブリザガ～

「みなさん、席についてください」

ザザザザザザ～

「ゴニョゴニョゴニョゴニョ・・・・・・・・・」

ブリザガ～ブリザガ～

ー帰り道ー

「今日の魔法ってなんだったっけ？？」

「ミンちゃんがそんなこというなんて、珍しいですね。今日は『金運アップ魔法』ですよ」

「そっかぁ～。ありがとぉ～。あとさぁ、１つ聞きたいんだけど・・・・。」

「なんですか？」

「なんで敬語！？」

「タメ口は苦手なんです・・・」

「ふーん。苦手ならいいけどさ！」

「あ、着いちゃった！！サン、明日ねぇ～！！」

「はい。さようなら」

「お母様！ただいま帰りましたわ！」

「おかえり。遅かったわね。」

「そうですか？いつもどおりに帰ってきたつもりなんですがぁ・・・」

「そう？ならいいわっ。今日のご飯は『かえるの卵焼き』よ！！！

！！！！！！」
「お母様！一度、後ろを向いてくださいません？？」
いまだ！金運アップ魔法を試してやる！！
小声で
「ゴニョゴニョゴニョゴニョ・・・」
すこし時間がたってから
「あ、ミン！おこずかいあげてなかったわね！！今日は奮発して、2万円よ！！」
「あ・・ありがとうございます！！」
やった！！効いた！

ーそのころサンの家ではー
やりましたわ！！
おこずかいが5千円なんて！！
魔法が効きました！！

ージンの家ー
よっしゃ～！！！
こずかいが1万！！
魔法ってすげ～

ーシノンの家ー
お・・・おぉ！！！
おこずかいが3千円！！！！！！！！！！！！！！！！
！！！！！！

魔法の効果ってすごいです！！

みんな使ってる。言い方を変えれば

『みんな一緒！！』
どんな時でも、みんな一緒。
やっぱり親友の力ってすごい！

## 第６章―転校生がやって来た！！（前書き）

今回は、人物紹介には書いていない、転校生を書きます。

## 第6章ー転校生がやって来た！！

ーホームルームー

「みなさん、今日は転校生を紹介します。どうぞ」

みんなが教室のドアに視線を向けた。授業よりも静か、そして真剣に見ている。

ガラガラガラ

転校生が入ってきた。男の子か女の子か分からなかった。服装はボーイッシュ。だけど顔は女の子っぽい。

「私の名前は里山（さとやま）弥生（やよい）です。地球の日本という国から来ました。なので、魔法は使えません。みんなと違うけど、仲良くしたいと思っています。」

え・・・っ。人間界から来たの！？この―私立魔法願馬朗学校《しりつまほうがんばろう学校》には、人間は来たことない・・・。日本はロボット先進国としてよく授業で聞くけど・・・。

「里山さんは、ミンさんの隣に座ってください。」

「はい」

「あなたがミンさんですね？里山弥生です。よろしくお願いします」

「ヨロシク～☆あたんは人間とあったことないから光栄やわぁ～。」

「私も光栄ですわ。」

「ミンさん。里山さんをリードしてあげてくださいね。」

「分かってるんやきに大丈夫やで～」

「タメ口なんですか・・・・」

ずいぶん礼儀ただしいんやな～。日本ではそれが普通なのか？

って思うくらい弥生は礼儀ただしいんや～。

## 第6章―転校生がやって来た！！（後書き）

変なトコで続きになっちゃって申し訳ありませ～ん！

## ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n5203l/

魔法使いの大変さがあなたにわかりますか？？

2010年10月28日07時46分発行